

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

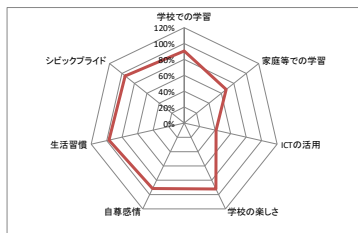
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほぼ全項目において、本校の平均正答率は市・県・全国を上回った。「我が国の言語文化に関する事項」において、他の項目より正答率が高く、問題形式としては、「選択式」「記述式」の正答率が平均を上回った。「短答式」の正答率・無回答率が高いため、漢字を苦手とする児童が多い傾向である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題	上回っている
	努力が必要な問題	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	市の平均は正答率を上回ったものの、県・全国平均と比較すると下回った。項目別では、「数と計算」「データの活用」は全国平均を上回ったものの、「変化と関係」の項目では下回った。同項目の中で、「速さ」の意味や、「道のり」と「時間」の関係を考察するような問題を苦手とする児童が多い傾向である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや違いないように分類整理する問題 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
質問調査結果の全国平均に対して、「ほぼ同じ」または、「下回る」結果となった。自尊感情の項目の「自分には、よいところがあると思うか」の質問に対して67.9%と数値は停滞するも、「人の役に立つ人間になりたいか」の質問に対して94.3%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれているか」の質問に対して84.9%と、全国平均と同等の肯定的回答が得られた。「人の役に立ちたい」が自信が伴わない傾向があるため、今後も継続して自尊感情を高める取組を行う。また、低かった項目の中に、「家庭等での学習」「ICTの活用」がある。「家庭等での学習」では、1時間以上行っている児童が35.8%と平均より低かったため、家庭学習の意義や目的について、再度浸透させ、改善する。「ICTの活用」では、タブレットを授業で使うための校内研修の充実や、家庭での活用について取組を協議し、使用頻度を改善する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

国語科では、朝自習およびその他の時間で積極的に漢字の学習に取り組む。また、文章から伝えたいことを明確にしたり、伝え合う内容を検討したりする力をつけることができるよう、自分の考えをもつための発問を工夫する等取組を行う。算数科では、「図形」「変化と関係」の区分を苦手とする児童が多いため、A Iドリルなどで復習を行いながら、発展的問題に挑戦できるようにする。学校全体では、「学びあう」ための基盤づくりとして、朝自習の「つながるタイム」を利用しながら、児童と児童の対話を重視した授業内容を構成していく。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習を促進させるため、家庭学習の意義や目的について伝えて啓発する。また、児童が学びたいような家庭学習の充実を図る。具体的には、自主学習の取り組み方、よい内容の自主学習ノートを紹介、題材や書き方のポイントをまとめるなど、一人一人が取り組みやすい学習体制を整備していく。